

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 5

2013年3月16日（土）発行

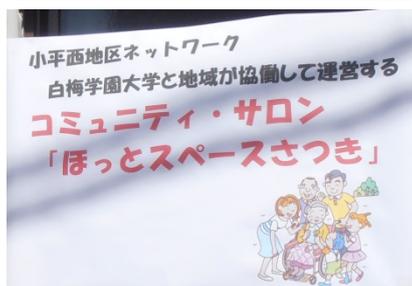
発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

西地区ネットワーク誕生1周年

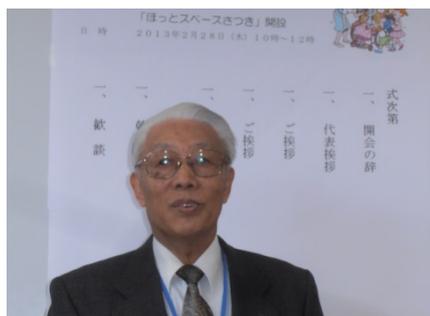


コミュニティ・サロン（小川町1丁目に） 「ほっとスペース さつき」 2月28日オープン！

第4ブロック世話人 渡辺 穂積

コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」は、今まで長い間「白梅学園と地域」が協働で夢を描き準備を進めてまいりましたが、ここでようやく準備が整い開所できる運びとなりました。

開所式は、去る2月28日（木）10時より12時まで、場所は小川公民館をお借りしてセレモニーを行い、そのあと「ほっとスペースさつき」に移動して設備見学と歓談をしていただきました。



式典には、大変お忙しい中を市役所、社会福祉協議会、白梅学園、地域の方、それに各団体・サークル仲間のみなさん等の関係者約90名と

大変多数の方々にご来場いただきました。本当に有難うございました。狭いところで十分な対応も出来ず大変失礼いたしました。

われわれ「ほっとスペースさつき」の役員、ボランティアスタッフ一同は、みなさんの温かい気持ちが大きなパワーとなって我々の背中を押していただけたと喜びと感謝の気持ちで一杯です。

これからは「ほっとスペースさつき」を立ち上げた時の初心と熱い思い入れを忘れることなく、さら

に「白梅学園と地域」の協働で実施することでお互いに利点を生かして地域の絆づくり、世代間交流の一助となっていければと思っています。そして、これからは、この「ほっとスペースさつき」をきっかけとして地域密着型のコミュニティ・サロンがさらに生まれてくれれば幸いです。



（コミ・サロン代表）

「西地区地域ネットワーク」って何？

昨年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

速報

「小川西町・栄町ネットワーク」主催（3/9）

「地域センターで親子であそぼ〜！」の集い&

コミュニティ講座「地域の中で人を育てる」開催！

第1ブロック世話人 西 克彦

「地域の中で人を育てる」（参加者30人）。

講師は「地域とはコミュニケーションが自由にできる



場であり、活発に気持ちを通じ合うコミュニケーションすることが人を育てる」、「子どもたちに親

があらひのままの態度を示すことで『自尊感情』『自己肯定感』を育むことにつながる」などのお話を具体的な例を取り上げながら講演。なかなか好評でした。

なお、世話人会は、次回は6月につどいを開くことを決めました。またご参加ください！

3月9日（日）「小川西町・栄町ネットワーク（第1ブロック）」は、小川西町地域センターで午前10:30～12:00まで「親子であそぼ〜」の集い、午後2:00～3:30まで汐見稔幸（しおみ・としゆき）白梅学園大学学長の講演会を開きました。

午前の集いには地域の子ども約25人と大人50人（スタッフ入れて）が参加。手作りのおもちゃ・遊具による自由遊びや、その後地域の“ぐるんぱ”の皆さんによるペープサートと大型絵本の読み聞かせを幼児とお母さん・お父さんたちが楽しみました。



ペープサートと大型絵本の読み聞かせを幼児とお母さん・お父さんたちが楽しみました。

午後は汐見先生の講演

小平西地区ネットワーク設立1周年を迎えて

小松 隆二・白梅学園理事長



東日本大震災では、私どもは多くの点で教訓をえました。まず危機管理に対する認識の甘さ・遅れを教えられました。市民生活でも無防備に近い状態であつたことも反省させられました。その教訓をしっかり受け止め、後世に生かさなくてはならないと思ひます。これまで、行政さえ、明治二九年の三陸大地震・大津波など過去の経験に学ぶことをせず、むしろ無策に近い対応を繰り返してきました。

実は、2年前の大地震の勃発時には、私はたまたま福島市にいました。その揺れの大きさに死ぬ思いでした。それから3日間は避難所生活と同じで3食おにぎりのみの生活でした。その時のおにぎりの有難さ・美味しさは今も忘れません。

私が宿泊でお世話になっていた福島学院大学では鉄筋3階建ての本館が崩壊し、近隣では住宅が傾き、自動車が潰れている光景が見られました。鉄道・バ

ス・道路等交通網はズタズタ。動くこともできせんでした。この間、市や町内会からは何の情報も入らず、頼れるのはテレビ・ラジオのみでした。飲み水の配給、開いているスーパーなどの情報も全てテレビ・ラジオからでした。

市民・住民の皆さんも市民同士の日頃の連絡網・協力体制の必要を痛感しました。連絡しようにも、助け合いをしようにも、一人一人が孤立状態でした。海岸寄りに比べて被害が比較的軽かつた福島市内でもそんな混乱状態でした。

小平市の一部においてであれ、顔の見える住民ネットワークづくりが準備会・勉強会の後、正式には発足したこと、住民の御芳志でコミュニティ・サロンまで設置されたこと、また白梅学園も参加・協力できたことも大変うれしことでした。

災害は忘れた頃どころか、周期的にやってきます。この小平西地区のネットワークが機能化・永続化することを切に祈念致しております。

ネットワーク設立1周年を祝して

小平市長 小林正則



小平西地区地域ネットワークの設立1周年をお祝い申し上げ、この間の関係者並びに地域の方々のご尽力に、心から敬意を表したいと思います。

先の東日本大震災から、早いもので、2年が過ぎようとしています。あの震災により、いざという時は、行政よりも、身近な地域が大きな役割を果たすことが確認されました。地域の「きずな」の大切さが改めて注目され、全国的にも、地域のネットワーク作りへの関心が高まっています。

小平西地区においては、地域に根差す白梅学園が音頭をとり、自治会をはじめとする地域の様々な団体が連携し、定期的な世話人会や懇談会の開催を中心に、現在、4ブロックで様々な地域ネットワーク活動の取組みが進んでいます。

市といたしましても、「地域が地域を担うしくみ

として、地域自治の推進を図っており、小平西地区の地域ネットワークの動向には大きな関心をもっているところです。

これまでのように、自治会を中心とする地縁団体だけが地域を担うのではなく、個々の地域課題や一定のテーマごとに組織されたNPOなどの団体も地縁団体とともに、地域運営に深く関わることが、今後、必要となってまいります。そのためにも、一定の地域をベースに、その地域の様々な団体が有機的に連携・連合し、新しいコミュニティとして地域を担っていく仕組みをどのように築いていくか、これからの地域力が試される時かと思えます。

そのような意味で、今後、小平西地区地域ネットワークの取組みが、地域を担う一つの大きな流れになれば、市といたしましても、必要な支援を検討してまいります。2年目を迎えた、このネットワークがきっかけとなり、小川西地区から有力な地域自治組織が立ち上がることを期待しています。

コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」オープン!

白梅学園大学 杉本豊和・森山千賀子

みなさんこんにちは!

「白梅学園大学と地域」の協働により、小平西地区に地域の居場所「コミュニティ・サロン ほっとスペースさつき」が、2013年2月28日(木)にスタートしました。

「ほっとスペースさつき」は、地域に住む皆さまの憩いと交流の場として、子育て中の父母、子どもたち、お年寄り、障がいのある人、家族の介護をし

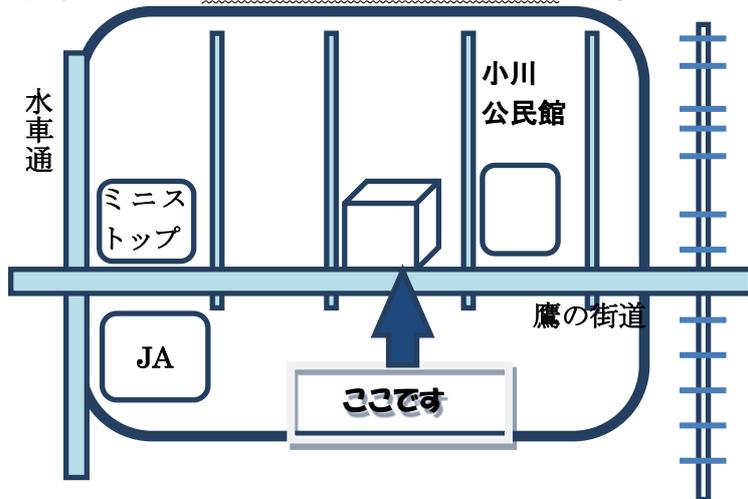
ている人など、どなたでも気軽に利用していただけます。お茶を飲みながらゆったりと地域の方々との交流の場としてご利用ください。

お茶代等として1日100円を頂いております。高校生までは無料です。小学生までは保護者の方の送り迎えをお願いいたします。乳幼児の利用は保護者同伴をお願いいたします。開所は、火曜日と木曜日の午前10時～午後4時までです。

<お問い合わせ先>

地域：渡辺穂積 344-7412
：細江卓朗 344-7618
白梅学園大学：森山・杉本
代表 346-5658 内線 267

(2013年2月12日打ち合わせ会の様子)



「コミ・カフェ（1/17）」に参加して

NHK 学園放送大学 社会福祉士養成過程 後藤修平（白梅学園大学 OB）

白梅学園を卒業してから早2年。日々小平とのきずなも少しずつ薄れています。私にとって地域とは学びの場でした。4年間の大学生活を通して、小平市で地域の子ども・高齢者と触れ合いながら、育てていただきました。この恩返しをすべく、地域との交流を意識してきましたが、住んでいる場所とも離れたこの土地に足を運ぶにはエネルギーが必要です。結果的に、2年の月日で交流も減ってきました。

今回の「コミ・カフェ」のような機会を設けてくださることは、私たち小平市から離れた人間にとっても、ふと振り返るきっかけとなりました。顔の見知った方との再会だけでなく、新たな発見や交流も生まれます。

このたびお話をしたテーブルでは、朝の習慣の話題から漢字の由来まで様々な話が展開されました。書道の先生をなさっている方が、とても漢字に詳しく一人ひとり自己紹介をする中で、

「この漢字の由来はこのような話が元になっていて…」など詳しいお話をいただき、テーブルに座った誰もが感心させられました。

また、学生さんがおみくじを作ったり、お茶やおつまみを用意してくれたりと予め準備がなされていたことで、ゆったりとした気持ちでカフェに参加することが出来ました。

近年、高齢者の孤独死なども叫ばれる世の中ですが、何よりも核家族化等が進み、高齢者と顔を合わせる機会を多く持つ若者が減ってきているように感じます。同世代での交流はとても楽しいものですが、

今回のような多世代での交流をすることでも、また異なった楽しみを味わうことができるように感じました。このような温かいきずなが、また私たちを小平へと導いてくれるのではないかと期待しています。

介護のこと、話してみませんか？

認知症と介護を考える家族の会

第4ブロック世話人 萩谷洋子

こんにちは。私からは、小平わかばの会についてご紹介させていただきます。

認知症と介護を考える家族の会“小平わかばの会”は、小平市社会福祉協議会登録のボランティア団体です。現在、高齢化の進展にともない、介護の問題は避けて通れない状況になっています。

介護する、される そのどちらにもいろいろな悩みがあります。そのような時、心のうちを聞いてもらえたら、・・・お話ができたら・・・そして一人ではない、仲間がいると感じることが出来たら・・・どんなにか励まされところが軽くなることでしょう。

そんな場が「小平わかばの会」です。愚痴をお持ち下さい。

大切な会の資源にさせていただきます。

定例会を下記の日程・場所で行っております。

<定例会>

日時：毎月第3金曜日

場所：小平市福祉会館（都合により変更があります）

会費：1年間 1,000円

会報：隔月発行

問い合わせ先：

萩谷洋子 TEL 042-342-1738

動きだした設立後の活動——ネットワーク1年間の歩み

白梅学園大学 森山 千賀子

設立集会後の大きな行事としては、5月の連休中に「福島と小平の子どもたちの会」プロジェクトがあります。これは、チーム小平などの呼びかけにより西ネットに所属する団体「NPO法人こだいら自由遊びの会」や「本学の子育て広場」などが実行委員として参画し、3.11原発事故の放射能による影響で外遊びができないフクシマの小中学生38人を3泊4日で小平に招待し、西地区にある中央公園でハンモック、ブランコ、木工コーナーなどの遊びなどの外遊び活動が行われました。子どもたちは外遊びを心行くまで楽しみ帰省しました。

また、6月1日には西ネットの広報紙「西のきずな」第1号を発行し、3月17日の設立集会での市長、小松理事長、各ブロックの代表の発言、地域ネットワークの団体のイベント・行事予定等が掲載されました。その後、9月、11月、2013年1月には第4号と2～3か月おきに発行されています。

6～9月には、市内のいくつかの公民館まつりや青少年対策協議会による小学校のフェスティバル・納涼祭などが取り組まれました。7月のある小学校の納涼祭では、これまではやぐらの周りでの盆踊りは高齢者の一団が“炭坑節”、“小平音頭”など伝

統的な踊りを披露し、それを遠巻きに観衆が見守るといった光景でした。それではいけないと、今回は高齢者グループや他の団体が事前にリハーサルを行い、また本学の学生10数人が踊りに積極的に参加しました。

伝統的な踊りに加え“よさこい節”やロック調の曲で踊りだすと、子どもたちや保護者たちが踊りに加わり、さらに高齢者が見よう見まねで踊りだし、踊りの輪が二重・三重になって盛り上がり、まさに世代間交流の典型的な光景を作り出しました。例年にはない千人を超える参加者でにぎわい、主催者は大喜びでした。

家族・地域支援学科の授業の一環としては、6月～8月にわたり文化創造ホールや生協食堂を活用したコミュニティカフェ、小学校や高齢者施設での納涼祭への参加、地域に長年住む方がガイドになって学生と玉川上水や地域をまわるフィールドワークなどが行われました。学生からは、外に出て行う学習は教室での座学とは異なり有意義であったという声がきかれました。

さらに、白梅祭では被災地に手づくり玩具を贈る取り組みを行う保育科源ゼミとI23講義室共有使用し、「西ネットの1年」を紹介しました。地域での居場所づくり、HPの立ち上げなど、少しずつですが、西地区のさまざまな人たちとの「顔の見える関係づくり」が始まっています。

2012.10.21 白梅祭会場



全ての人々にやさしい町づくりを！！

——「社会的弱者＝子ども・女性・障害者・高齢者の目で！！」——

最近の新聞紙上では「イジメ」「体罰」記事がめだっています。大津の事件や、女子柔道の選手たちの訴えなど様々です。先日、武蔵野美術大学名誉教授

第3ブロック世話人：穂積 健児
の伊藤高弘さんの「体罰」に関するお話を聞く機会がありました。

体育がご専門の先生の話では、日本のスポーツ界

では、フランスなどヨーロッパと異なり、人権が認められていないということでした。そして、このことは、年金、介護、雇用、増税、生活保護引き下げ等あらゆる社会問題と「同根異種」だと指摘され、起こるべきして起こった事件だと話されました。

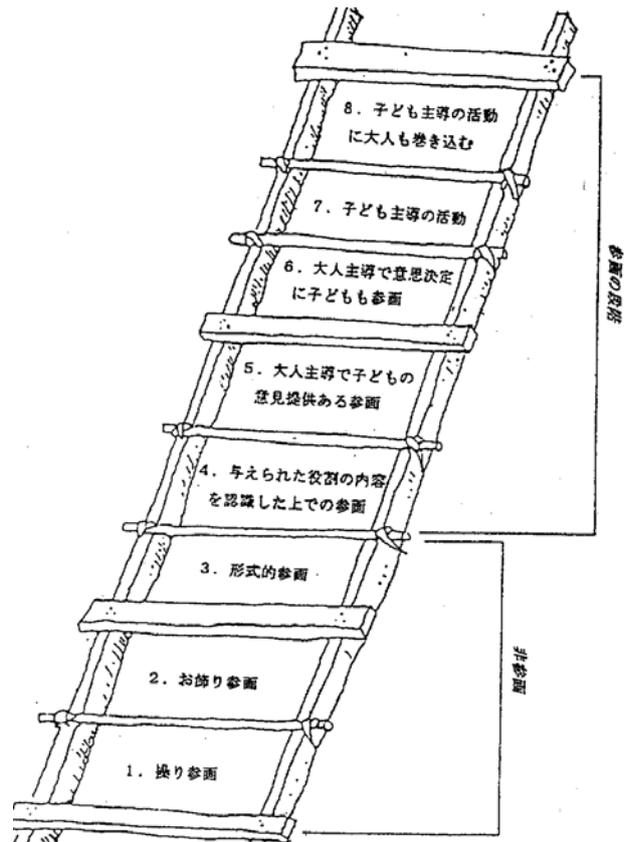
一方、「イジメ」問題でも、様々な専門家、評論家の方々がいろいろ論評されていますが、誰一人、「子どもの権利条約」を取り上げ、残念ながら「日本の学校現場ほど『子どもの権利条約』から遠い存在はない」という話はされていません。

ご存じのとおり、日本は国連加盟国の中で、アメリカとともに最も遅くこの条約を批准した国です。国や地域の将来を担ってもらう「子どもたち」の権利が守られない実態が存在するからこそ、学校現場でイジメや校内暴力、自殺が起こると私は考えています。そこで、「高い理想」を掲げてスタートした「小平西地区地域ネットワーク」には、ぜひ「子どもたちの参画」を期待したいと思います。

以前、小平市の社会教育課で「子どもの権利条約普及推進事業」として「小平版『若者のしゃべり場』」を実施し、市内の中・高校生に参加・参画してもらった経験および、小平市議会での「子ども議会」を見ると子どもたちはそれぞれしっかりした「意見を表明」しています。

白梅大学の学生が支える形で地域内の小・中・高校生が参加・参画し、「子どもの権利条約」が実現する「まちづくり」がぜひ必要だと考えています。「子どもの権利条約」が実現することが障害者、女性、高齢者が住みやすい「まちづくり」につながると確信しています。

右のロジャーハートの「参画の梯子」をご覧ください。



ロジャーハートの「参画の梯子」

[参考] 子どもの権利条約

- ・第3条：児童の最善の利益の考慮
- ・第12条：意見表明権
- ・第31条：休息・余暇・遊び・文化的・芸術的生活への権利

小平市制施行 50 周年記念事業「子育て・子育てシンポジウム」報告

2月24日(日)午後、白梅学園大学J26教室において、小平市制施行50周年記念事業「子育て・子育てシンポジウム」が開催されました。出席者およそ60人でした。

はじめに事業開催の挨拶として小平市次世代育成部児童課の金子一道課長より挨拶があり、白梅学園大学の山路憲夫氏より「子育て支援と社会保障」と題した記念講演がありました。

山路氏は、少子化が進んでいる現状を分析しながら子育て支援の必要性と同時にその限界に触れ、地域での子育て支援の充実と同時に企業等の働き方(仕事と子育ての両立支援)の充実を強調。またワ

白梅学園大学 瀧口 優
ーク・ライフ・バランスの実現として、出産育児、家庭も大事にしながら働ける環境づくりの必要性をスウェーデン等の例を挙げながら訴えました。

第二部のパネルディスカッション「まちであそび、まちをつくる」では、武蔵野美術大学の学生さんから3つの報告がありました。小平第十二小学校の「ぼくらの大げやき」プロジェクト、中央公民館でのトイ・コレクションプロジェクト、そして小川町2丁目児童館の遊びの地図(こだマップ)づくりです。学生たちが授業を受けながら創造的に取り組んでいる様子が印象的でした。

続いて、小川2丁目児童館の関口さんから「児童館のあり方や役割」についての話、花小金井児童館の山本さんからは「児童館で1年間行なっている様々な取り組み」が報告されました。児童館の内部だけでなく、地域に出かけていく様子が印象的でした。

白梅の子育てひろば GP 学生委員会委員長の一倉さんが、8年にわたって積み上げられてきた「白梅子育てひろばの歴史とその中での学生委員会の活動」、さらに何を目標として取り組んできているかを報告。最後に小平西地区地域ネットワークの現在までの取り組みを瀧口が行い、「顔の見える関係づくり」を目指していることを強調しました。

コメンテーターの草野篤子氏（白梅学園大学）、星野諭氏（NPO 法人コドモ・ワカモノまちing 代表）からは、7つの報告を踏まえて地域づくりやまちづくりの重要性とすすめ方についての的確なまとめがありました。最後に今回の企画を担当した NPO



法人ワーカーズコープ三多摩事業本部長より、小平における子育て・子育ての環境作りについて積極的に関わっていくことの重要性がまとめられました。

住民投票条例案、

市議会特別委員会で可決

小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会
水口 和恵

小平中央公園横の雑木林を半分つぶして東京都が道路をつくらうとしている小平 3・2・8 号線計画に対して、「住民参加で計画を見直す」べきと思うか、「計画の見直しは必要ない」と思うかを小平市民に投票してもらった住民投票条例案が、3月6日の小平市議会「住民投票特別委員会」で、賛成多数で可決されました。

この条例案は、「住民の意思を反映させる会」が、2月14日に小平市長に直接請求したもので、市長は、「東京都が進めようとしている道路事業に支障をきたす恐れがある」という内容の反対意見を付けて、3月1日に市議会に付議。今回の特別委員会可決の後、3月27日（水）の市議会本会議で可決されれば、住民投票が実施される運びになります。

皆さんの引き続きのご支援をお願いします。

西地区のイベント予定

3月31日（日）自由遊びの会
きつねっばら公園にて

ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブ ロ ック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	山路・瀧口（優）・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野・西方・牧野 瀧口（眞）
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	森山・杉本
全 体 的		奈良・長谷川・成田・吉村

今後の予定：5月14日（火）世話人会
28日（火）懇談会

小平西ネットワーク 2012.4～2013.3までの歩み

	西ネット全体	地域活動・イベント
3月	17日 設立集会	
4月	10日 白梅関係者第1回打合せ会 19日 第1回世話人会	27日 西ネット懇談会チャラポスティング(3年生参加) 28日 白梅子育て広場遊ぼう会
5月	8日 白梅関係者第2回打合せ会 17日 第1回懇談会	3～5日 福島と小平のこどもたちの会(3～5)日 4日 懇談会ニュースNO.3郵送
6月	7日 第2回世話人会 28日 白梅関係者第3回打合せ会	7日 「西のきずな 第1号」発行 12日 第4B フィールドワーク(家族3年) 26日 白梅文化創造ホールにてコミュカフェ(家族1～3年参加) 30日 あそぼうかい(白梅文化創造ホール)
7月	19日 第3回世話人会	21日 1小納涼祭、12小夏祭り、黎明会納涼祭(子育て広場、家族1年学生参加)
8月	2日 白梅関係者第4回打合せ会	10日 第4B フィールドワーク(家族3年)
9月	20日 第4回世話人会 27日 第2回懇談会	15日 「西のきずな第2号」発行
10月	9日 白梅関係者第5回打合せ会	6日 市民活動まちづくりシンポ(汐見学長) 20・21日 白梅学園祭(西ネット展示、ほっとスペース、あそぼうかい)
11月	3日 白梅関係者第6回打合せ会 8日 第5回世話人会 22日 第3回懇談会	9日 第2回コミュニティカフェ(学生食堂、家族3年) 22日 「西のきずな第3号」発行 25日 「ほっとスペースさつき」ミニバザー
12月	4日 白梅関係者第7回打合せ会	14日 コミュニティカフェ(学生食堂) 15日 子育て広場シンポ
1月	10日 第6回世話人会 17日 第4回懇談会	8日 「ほっとスペースさつき」地域・学生顔合わせ会 17日 「西のきずな第4号」発行。コミュニティカフェ(学生食堂)
2月	12日 白梅関係者第8回打合せ会 26日 第6回世話人会	12日 「ほっとスペースさつき」運営打ち合わせ準備会 24日 市制施行50周年事業「子育て・子育てシンポ」 28日 「ほっとスペースさつき」開設
3月	16日 市と大学の共催で講演会とシンポジウム(設立1周年)。第5回懇談会	9日 小川西・栄町でネットワーク集会:「親子で遊ぼう」「汐見学長講演」 16日 「西のきずな第5号」発行

お願い: このニュース『小平西のきずな』の編集方針は「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加者の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出ください。

投稿募集: このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

Email: ever.onward.nara@aroma.ocn.ne.jp 奈良

編集後記: 昨年3月17日スタートした西地区ネットワークは今年3月16日でちょうど1年。小川町のコミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」の開設や「小川西町・栄町ネットワークのつどい」の開催など活動が本格的になってきた感じがします。この広報紙「きずな」も第5号になりました。皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと考えます。よろしく。(N)